

普及指導員調査研究報告書

課題名：夏秋トマトの生産安定を目的とした品種比較試験

萩農林事務所農業部 担当者氏名： 大永美由紀、古江寿和、西山隆明

<活動事例の要旨>

1 普及活動の課題・目標

山口あぶトマト産地（萩市むつみ地域）の気象、施肥管理方法に適する優良品種を選定する。

2 普及活動の内容

調査ほ場として、萩市むつみ地域に2か所設置した。

(1) 調査ほ場1

ア 調査概要

- (ア) 調査地域：萩市片俣
- (イ) 調査品種：試験品種「TTM-075」（タキイ種苗）
慣行品種「桃太郎サニー」（タキイ種苗）
- (ウ) 誘引方法：斜め誘引・1～3段果房は1本仕立て
4段果房以降は2本字立て
- (エ) 施肥管理：慣行の施肥管理（養液土耕システム）
- (オ) 定植日：平成26年5月上旬～中旬

イ 調査項目及び調査方法

各花房の第1花の開花日、各果房の着果数、各果房直下の茎径（第4花房以降は茎の2本のうち1本の茎について調査を実施）

(2) 調査ほ場2

ア 調査概要

- (ア) 調査地域：萩市高佐
- (イ) 調査品種：試験品種「桃太郎セレクト」（タキイ種苗）
「みそら64」（みかど協和）
慣行品種「桃太郎サニー」（タキイ種苗）
- (ウ) 誘引方法：斜め誘引・1本仕立て
- (エ) 施肥管理：慣行の施肥管理（養液土耕システム）
- (オ) 定植日： 「桃太郎セレクト」：平成26年5月1日
「みそら64」：平成26年5月24日
「桃太郎サニー」：平成26年4月23日

イ 調査項目及び調査方法

各花房の第1花の開花日、各果房の着果数、各果房直下の茎径

3 普及活動の成果

(1) 結果

ア 調査ほ場 1

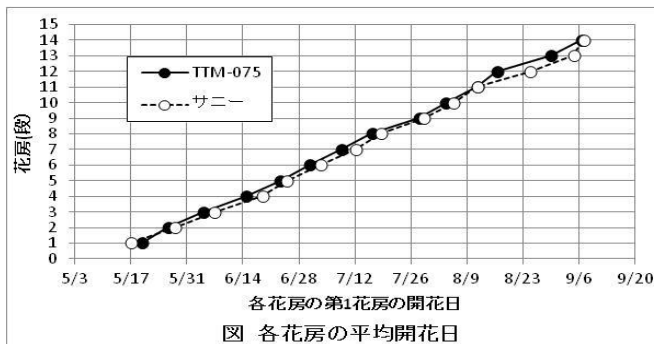


図 各花房の平均開花日

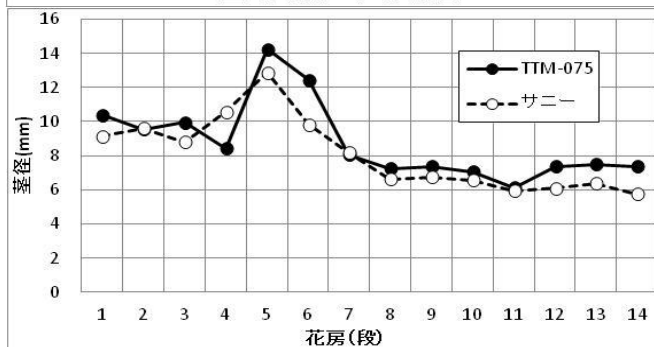


図 各花房の平均茎径

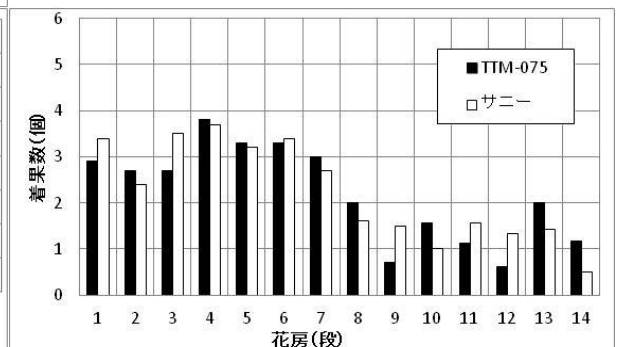


図 各花房の平均着果数

- ・開花日は、慣行品種（「桃太郎サニー」）と比較して、8月上旬の開花が遅れる傾向にあった。
- ・茎径は、慣行品種と比較して、4段花房以外は茎径が高い傾向にあった。
- ・着果数は、慣行品種と比較して、1～8段花房まではほぼ同等程度であり、9、11、12段（8月上～中旬頃開花）が低い傾向にあった。

イ 調査ほ場 2

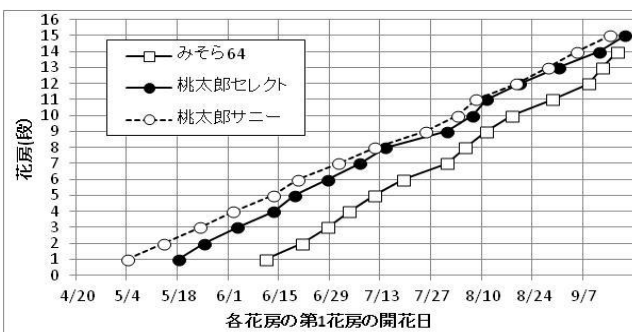


図 各花房の平均開花日と花房段数

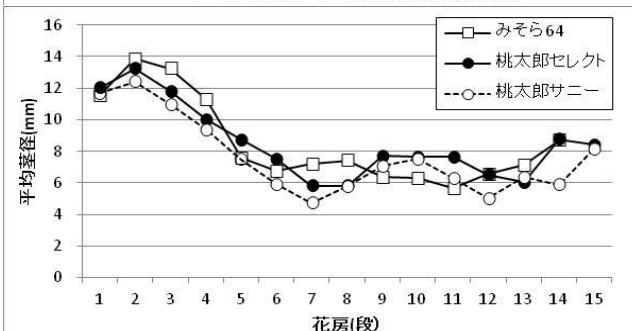


図 各花房の平均茎径

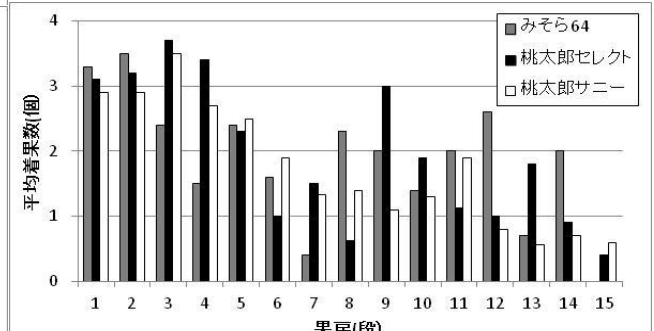


図 各花房の平均着果数

- ・開花日は、慣行品種（「桃太郎サニー」）と比較して、「桃太郎セレクト」は7月中下旬頃の開花が遅くなる傾向にあった。同様に比較して、「みそら64」は、7月下旬の開花がやや遅れたものの全体の開花日が早い傾向にあった。
- ・茎径は、慣行品種と比較して、「桃太郎セレクト」は高い傾向にあった。
- ・着果数は、慣行品種と比較して、「桃太郎セレクト」は6段、8段（6月下旬、7月中旬開花）が低いがそれ以外の段は同等程度から高い傾向にあった。同様に比較して、「みそら64」は3～7段（6月下旬～7月下旬）が低く、8段（8月上旬）以降が高い傾向にあった。

（2）考察

- ・7～8月の開花日が慣行品種と比較して供試3品種が遅れた要因として、7～8月の長雨による日照不足が大きいと推測される。H25年度に実施した同様の試験では、「TTM-075」の7～8月の開花・着果は安定していたことから、平年の夏期の気象条件における生育は安定していることが推測される。寡日照条件における対策として、一般に行われている草勢の維持を目的とした曇天時の葉面散布等の管理が必須と考えられる。
- ・「TTM-075」
茎径からみる草勢や着果状況は慣行品種と同等～良と推測され、栽培品種として有望である。
- ・「桃太郎セレクト」
茎径からみる草勢や着果状況は慣行品種と同等～良と推測され、栽培品種として有望である。
- ・「みそら64」
定植時期は、他の2品種より約1か月程度遅かったものの、9月上旬時点で他の2品種と同等程度の段数が開花していること、8月以降に開花した花房（8段以降）の着果状況が良好であるため、栽培品種として有望である。

4 今後の普及活動に向けて

- ・「TTM-075」「桃太郎セレクト」は、現在部会で生産している「桃太郎」系統品種に該当し、産地ブランドや選果運営体制（「桃太郎」、「麗夏」の2品種選果体制）を考慮してもただちに産地導入できる品種である。
- ・「みそら64」は、有望な品種であるものの、選果場の運営体制を考慮すると直近での産地導入が困難であると考えられる。今後の導入について、継続して産地での検討が必要である。